令和3年度　ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選

報 告 書

2021年10月3日、福島市の自治会館を審査会場に「令和3年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト」本選が開かれました（主催:福島県教育委員会・一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）、共催:福島大学アドミッションセンター）。今年度の本選は感染症対策のため、Web会議システムを利用したオンライン開催でした。予選の書類審査を通過した県内各地の12グループが、自分たちが行っている社会貢献活動について発表しました。

福島県内の高校生の社会貢献活動はとても活発で、主体的な課題発見・解決型の学習や、サービスラーニング（活動を通じた学び）としても注目されています。報告書では、本選出場グループの活動をご紹介します。

活動紹介

グループ名 〉 **会津若松ザベリオ学園高校 ザベカフェプロジェクト**

活 動 名 〉 **ザベカフェ**

SDGsの目標「貧困をなくそう」について学んだことから結成されたプロジェクトです。高校生メンバーの一人が会津若松市の「寺子屋方丈舎」で子ども食堂のボランティアをしたことがきっかけで、プロジェクトの活動が始まりました。子どもたちの中には、友達をうまく作れない子や、自分らしく過ごせる居場所を探している子がいます。そんな子どもたちのために、家庭でも学校でもない第三の居場所が必要だと気づきました。

中学生1人、高校生29人の計30人で「ザベカフェ」を企画・運営しています。当初は子どもたちと一緒に食べたり遊んだりする場を想定していましたが、コロナ禍の中での安全・安心を考慮し、ものづくりを通して子どもたちと関わることにしました。

夏休みには、お家にあるものでスライムをつくる「ぷるぷるデー」や、宝石石鹸づくりの「きらきらデー」、ALTの先生に協力してもらった「カナダデー」などを実施しました。参加した子どもたちからは「友達ができた」「楽しかったからまたやりたい」などの感想が、また大人の方からも「高校生が企画して、子どもとの関わりがあるのが面白い」「普段、子どもは家族以外との関わりがあまりないので、本人にとってもいい経験になった」などの感想が寄せられました。今後は会津若松だけではなく、猪苗代や喜多方などでの出張開催も検討しているとのことです。

活動紹介

グループ名 〉 **城下町映えさせ隊（学校の枠を超えたグループ）**

活 動 名 〉 **城下町映え映え大作戦!!**

「白河市は歴史と伝統のある街だけど、映えない（若者にとって魅力的なものがない）」「だったら、自分たちの活動で城下町・白河を映えさせよう!」そんな思いから始まった活動です。

高校生目線で「白河らしさ」を伝え、白河に関心を持つ同世代を増やすことを目標に、イルミネーションの制作と展示を行いました。大人主導ではなく自分たちの手でゼロから作り上げることにこだわり、ミーティングを重ね、小峰城を中心とする白河の四季をイメージしたオブジェを制作することに。大学生や地域の大人たちを巻き込みながら、「白河に咲く桜」「白河関まつり」「白河提灯まつり」「お堀に飛来する白鳥」を、木材や針金などを使って表現しました。イルミネーションは2021年の1月、市内の公園広場で点灯され、新聞や白河市の公式SNSなどでも広く紹介されました。今後はさらにメンバーを増やし、イルミネーション以外の方法でも白河市を「映え」させるため、活動の幅を広げていく予定です。

高校生たちは活動を通して、「やりたい」という気持ちを口に出すことや、分からないことを周りの人に質問したり手伝ってもらったりすることの大切さを学んだと言います。コンテスト本選では「たくさんの人が協力してくれて、白河の良さを再発見した」「高校生だからできないと思っていたが、高校生である今だからこそできることがあると実感した」と力強く語ってくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **白河高校 Smile More ひがし プロジェクト**

活 動 名 〉 **Smile More ひがし プロジェクト**

白河市東地域の関係人口増加を目的として、個人で実施しているプロジェクトです。地元の老舗のこうじ屋さんが、プロジェクトをサポートしてくれています。

白河市東地域には、豊かな自然や過ごしやすい気候、農業、歴史など魅力が多いものの、アクセスの悪さや少子高齢化、多世代間交流の機会の少なさなど、課題も少なくありません。中学校時代の探究をきっかけに「東地域のために活動したい!」と考え、地元の老舗こうじ屋さんを訪れると「面白そうじゃん、一緒にやってみようよ!」と協力してもらえることになりました。

プロジェクトの活動は、地元産りんごとこうじを使った6次化発酵スイーツの開発・提供、「りんご甘酒」のプロデュース、インスタグラムの開設、地元の桃を使ったアフォガードの開発と音楽イベントでの販売、小学生を対象とした甘酒づくり体験イベントの開催など、多岐にわたります。それぞれの活動の後には良かった点と反省点を整理し、次の活動へと繋げていきました。活動の際には自分でプレスリリースを行うなど、積極的な情報発信に努めています。

活動を通じて地域の人々のあたたかさを実感し、現在は東地域の「ヒト」を主人公とするフリーペーパーの制作に取り組んでいます。自身が活動のハブとなり、周囲の大人を巻き込みながら地域活性化に取り組む様子に、コンテスト会場は賞賛の声に包まれました。

活動紹介

グループ名 〉 **田村高校 三春滝桜ボランティア隊**

活 動 名 〉 **滝桜観光ボランティア**

三春町と連携し、高校の立地する三春町を活性化するための活動を行っています。今年度は三春町のシンボルでありたくさんの人が訪れる三春滝桜の観光ボランティアを行いました。

生徒たちで話し合い、観光客を対象としたアンケートを作成し、実施しました。内容は出身地や性別、年齢、滝桜を知ったきっかけ、三春の観光地へのリクエスト、三春の印象などです。コロナ禍の中での活動のため、アンケートで使用するボールペンをその都度消毒するなどの対策も行いました。アンケートの協力者には、生徒たちが手作りした三春町のミニガイドブックをお渡ししたほか、道案内や写真撮影のお手伝いなども実施し、観光客とのコミュニケーションを図りました。

実施したアンケートを生徒たちの手で集計・分析し、今後の滝桜観光ボランティアに必要なものは何かを検討しました。アンケートからは、高齢者層のみでなく若年層の来訪者も多いなど、意外な傾向も明らかになりました。分析結果をまとめて三春町の町長・副町長へ報告に行き、話し合いの結果、滝桜の時期のみでなく継続的に観光ボランティアを行うこととなりました。

より良い滝桜観光のために「看板の設置や表記方法などの検討」「トイレが少ないという意見に答える改善」「英語版アンケートを実施し、外国人観光客の意見も参考にする」など、前向きな提言をまとめています。「滝桜の地元の高校生として、誇りを持つことができた」と報告してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **チームしゅわしゅわ（学校の枠を超えたグループ）**

活 動 名 〉 **手話カフェ ～しゅわしゅわ～**

白河市内のカフェを貸し切り、手話や指差しなど非音声言語での接客やコミュニケーションを体験できる「手話カフェ～しゅわしゅわ～」を開催し、高校生が運営を担いました。手話との出会いは、自分自身が話すことが苦手だったり、学校や集団の「これが当たり前」という暗黙のルールに囚われたりしていた時期。話さずに自分の意思を伝えられる手話と出会い、独学で学ぶうち、手話を使える「居場所」を地域に作りたいと考えるようになりました。

2021年6月に「手話カフェ～しゅわしゅわ～」プレオープンを実施。「聴覚障がい者の居場所作り」「手話を覚えたい聴者へのきっかけ作り」「手話や障がいに対する理解の普及」を目的とし、50名が来店しました。手話講座や、聴覚障がい者も聴者も誰でも参加できる企画を実施したほか、特別ドリンク「あいしゅわ」も販売。アンケートも実施し、次回以降への改善点も探りました。

7月からはメンバー集めや情報収集、そして全ての人を巻き込むための工夫の追加などに奔走。8月の「手話カフェ～しゅわしゅわ～」では85名もの方が来店してくれました。

手話カフェなどの活動を通じ、「相手に何かあるのかもしれない」と想像・共感できる社会、誰にとっても過ごしやすい街をつくっていきたいと、実際に手話を取り入れながら発表。そのメッセージに、コンテスト会場からは大きな拍手がおくられました。

活動紹介

グループ名 〉 **遠野高校 家庭クラブ**

活 動 名 〉 **「遠野和紙」継承プロジェクト ～TONO DNAを残そう～**

遠野高校の卒業証書にも使われている、地域の伝統工芸品「遠野和紙」。遠野産の楮（こうぞ）とトロロアオイを用いて手作りされ、いわき市の重要無形文化財に指定されていますが、後継者の育成や伝統文化の継承が地域の大きな課題となっています。そこで遠野高校では平成30年度から、遠野和紙の保存活動を理解し、体験し、発信する「遠野和紙」継承プロジェクトを学校全体で展開してきました。

理解する活動では、遠野支所の訪問や、遠野和紙を継承している地域おこし協力隊の方へのインタビューを実施。体験する活動では、楮やトロロアオイの定植や栽培、収穫などに加え、実際の紙漉き体験も行いました。平成30年度からは、自分の卒業証書を3年生全員が自分の手で紙漉きしています。

発信する活動では、家庭クラブ研究発表大会や地域貢献サミット・ふくしま創生サミットなどに参加し、活動内容を発表。東京で開催された「ふくしま大交流フェスタ」では、紙漉き体験のお手伝いをして遠野和紙を広くPRしました。

令和4年度から遠野高校は湯本高校と統合し「いわき湯本高校遠野校舎」となった後、現在の1年生が卒業する令和6年3月には遠野校舎も閉校となる予定です。遠野高校は今年度で74年の歴史に幕を閉じることになりますが、「遠野和紙」継承プロジェクトの活動が種となり、統合後の高校や他校において花や実をつけ、引き継がれることを願っていると発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉浪江町を元気に笑顔に!（学校の枠を超えたグループ）

活 動 名 〉開けてびっくり!浪江の宝箱!

2021年5月から、浪江町商工会青年部やNPO法人ハッピーロードネットと協働し、浪江町の魅力を活かしたまちづくりに取り組んでいます。地域のNPOや商工会と繋がることで、浪江の魅力を知るきっかけになりました。今の街を活性化したい、若者に知ってほしい、同世代に伝えたいという思いで活動しています。

6月にはふたば未来学園中・高の生徒を対象としたワークショップを実施。実際に浪江町に来て、町の魅力を活かした商品を考えてもらいました。小グループに分かれ、マーケティングについて学んだうえで、誰を対象に、どのような商品開発をするかという内容です。

8月には、浪江の玉ねぎ「浜の輝き」を使った料理をふたば未来学園と浪江町商工会青年部がそれぞれ考え、道の駅なみえで料理対決を行いました。オニオン餃子「オニオンざ」とオニオンパスタ「オニパス」の対決です。対決の結果は来場者に決めてもらうなど、盛り上げに工夫を凝らしました。

「もっと多くのひとに双葉郡について知ってもらいたい」という願いから活動し、SNSでも発信しました。一部の人ではなく、多くの人の目に触れるような展開が必要であり、高校生だけでは活動に限りがある部分もあります。今回の活動では、学校の先生や地域の方々と繋がっていくことで、活動の幅を広げることができました。

活動紹介

グループ名 〉福島商業高校 福商 課題研究調査研究班

活 動 名 〉スマイルプロジェクト ～商品開発から高校生ができること～

先輩に刺激され、「福島の食の安全と復興をPRしたい」と活動を始めた三人。コロナ禍の中で「何がしたい!どうにかしたい!何ならできる?」とテーマ設定に臨み、人の笑顔は幸せを呼ぶと言われていることから、笑顔あふれる商品開発と販売促進活動「スマイルプロジェクト」をスタートしました。

手作りパンのお店と相談し、3本セットのクラッカー「セイ、チーズ」、笑顔の形をした甘さ控えめの濃厚ジャムパン「スマイルパン」、笑顔で帰るとカエルを掛けたカスタードクリームパン「カエルパン」が完成しました。いずれも、見た目の可愛らしさ・面白さと美味しさにこだわった商品です。また、老舗の和菓子処さんに依頼し、どら焼きに焼き印を入れた「福商かめさんどら焼き」を提案しました。4つの商品には福島県産の小麦を使用し、食の安全と復興をアピールしています。プロジェクトは基金の採択を受け、商品開発費や販売活動費に充てました。

商業の授業での学びを活かした販売活動では、理性と感性の両方に訴求するPOP広告をつくるなど、綿密に準備。7月に道の駅で販売活動を行うと、4つの商品160個は2時間で完売しました。

さらに社会貢献活動として、商品で得た利益で「福商かめさんどら焼き」を購入し、コロナ禍の最前線におられる医療スタッフや老人ホームのお年寄りにプレゼントしました。「これからもお客様と地域に、笑顔と元気を届けたい」と、思いを込めて発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 原子力防災班ゼミ**

活 動 名 〉 **Future Quest ～ふたばの魅力を探究する**

「双葉郡の負となるものを無くし、上書きするシンボルをつくる（※全てを無くす訳ではない）」「念いを伝えつつ、3.11を伝承する」という2つの目標を設定し、活動を行っています。

1年次から2年次にかけては、フォーラムやワークショップ、県内外でのバスツアーやフィールドワークなどに参加し、幅広く調査を実施。大川小学校と広島では、今後の活動に繋がる大きな学びを得ることができ、自分の中での「理想の福島」像を見つけることができました。

3年生となり、いよいよ活動の開始です。まずは4月にNPO法人ハッピーロードネット主催の「浜街道さくらウォーク」に運営側として参加し、広野のバナナを利用してつくったマドレーヌを配布しました。そして6号線の草むしりとごみ拾いを行った上で、6月には双葉町の国道沿いに、花壇づくりと看板の作成を行いました。見た人に「今日も一日、がんばろう」と思ってもらえるようにと心を込めた花壇づくりは、たくさんのメディアに取り上げてもらうことができました。

コンテスト当日には「できないことなんてない、自分たちが社会を変える原動力に」というメッセージを込め、凝ったデザインのスライドを使った、楽しく前向きなプレゼンテーションを堂々と披露。今後も、特産品のジャムを利用した防災保存食品づくりや、双葉郡の花をイメージしたスイーツ作りなど、さらに活動を展開していきたいと話してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 社会起業部**

活 動 名 〉 **今と未来をつなぐ語り部活動**

地域を「知る・伝える・盛り上げる」を軸に、震災・原発事故とそこからの双葉郡の歩みについて、高校生自身による語り部活動を実施しています。

東日本大震災・原子力災害伝承館で聞いた語り部講話をきっかけに、「参加者と交流しながら考えを深め合えたら、お互い学びながら伝えられるのでは」と考えるようになりました。「震災を風化させないように、無知・無関心の人たちの知るきっかけになりたい」「震災のマイナスを未来のプラスに!」「震災の記憶のある最後の世代として、自分たちにしか伝えられないことを伝えること」を活動の目的としています。

いわき市湯本・古滝屋の原子力災害考証館や、立ち入りが許可されるようになった双葉駅周辺の訪問など「地域を知る」活動を通し、学びを深めました。また、白河の高校生との交流会や、News Picsでの県外高校生との交流を通じ、自分たちが肌で感じた双葉郡の現状や福島第一原発の処理水問題などを多くの人に伝えました。参加者からは「処理水放出の問題について初めて知った」「福島県にこんな活動をしている高校生がいることに驚いた」などの声が聞かれました。

今後の県外研修に備え、「双葉郡8町村ポケットティッシュ」やパンフレットの作成などに取り組んでいます。福島の未来のために「知る・伝える・盛り上げる!」と熱い思いを発表してくれました。

活動紹介

グループ名 〉 **ふたば未来学園高校 メディアコミュニケーションゼミ ふたばメディアグループ**

活　動　名 〉 **ふたばメディア**

「情報発信を通した地方創生」を掲げ、ふたば未来学園で生徒が行ってきた探究活動のアーカイブ化とインターネットでの公開を進めています。

同校では「未来創造探究」という、全員が原子力災害からの復興をテーマとしたプロジェクトを起こす教育プログラムがありますが、「過去の探究活動を知らないから、どうすれば良いか分からなかった」そうです。逆に、「過去の探究活動を下級生が知らない」ことこそが課題だと感じた生徒たちは、探究活動を集約し、伝えるメディアをつくるプロジェクトを開始。「地域の課題は一朝一夕で解決できる問題ではなく、先輩から後輩へ学びを伝えることが重要」「自分たちの手でメディアを作れば、継続的な外部発信を行うことが可能」と、メディアをつくる意義の大きさに気付いていきます。

地域を盛り上げるための根幹となるメディアづくりを目指した彼らは、同校の探究活動を蓄積し、外部からもアクセスできるwebサイト「ふたばメディア」を開設することに。地元のパソコン教室からも学び、ロゴの作成やサイトの構築も自分たちの手で行いました。卒業生へのインタビュー記事は、できるだけ編集せず、生の声を発信することを心掛けたそうです。アクセス数も増える中、サイト運営費に充てる寄付を募るためのバナー広告集めや、SNSの活用など、さらに活動の幅を広げています。

ふたばメディア　→　https://futabamedia.com/

活動紹介

グループ名 〉 **船引高校 船高アクティブリーダー育成プロジェクト**

活　動　名 〉 **船高アクティブリーダー 育成プロジェクト**

東日本大震災の経験を活かし、過去・現在・未来を「知って」「聞いて」「見て」「まとめて」自分たちの考えを深め、地域のリーダーとしての資質・能力を育てることを目的とするプロジェクトです。船引高校のある田村市には、原発事故の影響で避難を余儀なくされた都路地区があります。震災から10年が経過するにあたり、都路地区の方々を学校にお招きして様々なお話を伺いました。

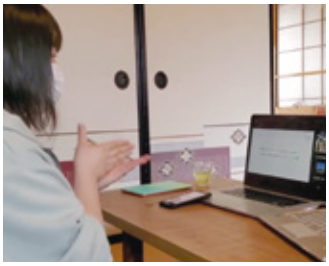
かつて都路地区は農林畜産業が盛んでしたが、震災・原発事故後は第一次産業の割合が大きく低下しています。また震災後、若い世代が町から離れていってしまう現状も学びました。

こうした経験を通して、プロジェクトでは「都路町での農業体験班」「都路小学校との交流班」「情報発信班」のグループに分かれ、活動を行い、農業体験班によるキクイモの収穫体験や畜産農家の訪問など、様々な形で地域に関わりました。

生徒たちは活動を通し、地域の良さを再発見したと言います。高齢化や人口減が進む中でも、地域のために頑張っておられる方々とたくさん出会ったことで、「自分たちも地域を支える人材になりたい」と思いを強くしたそうです。どうすれば地域貢献ができるかを考え、現在は「地域の防災」をテーマとし、新たな活動をスタートさせています。地域のつながりをつくり、これからの「未来を創る」一歩を踏み出せた、とプロジェクトの意義を語ってくれました。

コンテスト本選では各グループのプレゼンテーションと、審査員の先生方からの質疑応答が行われました。オンラインでの開催でしたが、どのグループも地域や社会の課題を「自分事」と捉えた活動ばかりで、熱い思いが伝わってきました。審査員の先生方による厳正な審査の結果、別表の通り各賞が決定しました。

受賞者には、福島県教育委員会の鈴木淳一教育長と、審査委員長の佐野孝治先生（福島大学副学長・アドミッションセンター長）から賞状が贈られました。みなさん、本当におめでとうございました!



令和3年度 ふくしま高校生社会貢献活動コンテスト 本選結果

福島県教育委員会より

最優秀賞

- チームしゅわしゅわ

優秀賞

- 白河高校 Smile More ひがし プロジェクト
- ふたば未来学園高校 社会起業部
- ふたば未来学園高校 メディアコミュニケーションゼミ ふたばメディアグループ

入選

- 会津若松ザベリオ学園高校 ザベカフェプロジェクト
- 城下町映えさせ隊
- 田村高校 三春滝桜ボランティア隊
- 遠野高校 家庭クラブ
- 浪江町を元気に笑顔に!
- 福島商業高校 福商 課題研究調査研究班
- ふたば未来学園高校 原子力防災班ゼミ
- 船引高校 船高アクティブリーダー育成プロジェクト

福島大学アドミッションセンターより

福島大学アドミッションセンター長賞

- 城下町映えさせ隊
- 浪江町を元気に笑顔に!
- 船引高校 船高アクティブリーダー育成プロジェクト

社会貢献賞

- 本選出場の全グループ

コンテスト本選の様子を動画配信中!

https://www.fks-manabi.net/

今年度のコンテスト本選は感染症対策のためオンライン開催とし、一般見学は行いませんでした。当日の模様は、「ふくしま学びのネットワーク」公式サイトで動画を配信中です。ぜひご覧ください。

令和 3 年度 ふくしま高校生 社会貢献活動コンテスト本選 報告書（2022 年 1 月発行）
主催　福島県教育委員会、一般社団法人ふくしま学びのネットワーク（運営事務局）
共催　福島大学アドミッションセンター
※本報告書 PDF 版は「ふくしま学びのネットワーク」公式サイト（https://www.fks-manabi.net/）からダウンロードできます。